

総合開館 20 周年記念 TOP コレクション

「いま、ここにいる—平成をスクロールする 春期」

20 Year Anniversary TOP Collection: Scrolling Through Heisei Part 1

In the Here and Now

2017 年 5 月 13 日(土) — 7 月 9 日(日)



佐内正史 〈生きている〉より
1995 年 発色現像方式印画

作品はすべて
東京都写真美術館蔵

TOP コレクションは、34,000 点を超える東京都写真美術館の収蔵作品のなかから、毎年ひとつの共通テーマで、春期、夏期、秋期の 3 期にわたり作品を紹介する展覧会シリーズです。リニューアル・オープン後、初の開催となる展覧会共通テーマは「平成をスクロールする」。「平成」は社会が成熟に達した一方で、わたしたちの日常を一変してしまうような社会問題や経済危機、自然災害など、さまざまな困難な局面がありました。言葉にできない不安や閉塞感が漂うなかで、平成という時代は、「いま、ここにいる」この意味が繰り返し問われた時代といえるのではないのでしょうか。

「いま、ここにいる—平成をスクロールする 春期」展では平成期を代表する 9 名の写真家の作品シリーズに焦点を当て、写真家それぞれの「いま、ここにいる」この意味をめぐる表現を手がかりに、平成とはどのような時代なのかを考察します。

展覧会概要

出品作家 計 9 名(予定)

佐内正史、ホンマタカシ、高橋恭司、今井智己、松江泰治、安村崇、花代、野村佐紀子、笹岡啓子

出品点数 約 90 点 出品作品のうち、84 点が収蔵後初出品となります。(予定)

写真は「いま、ここにいる」ことの記録

なぜ、「いま、ここにいる」のか。必ずしも写真家から明解な答えはありません。夕暮れの河川敷や郊外の住宅街、異国のショッピングセンターの駐車場、自宅の一室など、写真家はそれぞれの世界との関わりから「いま、ここにいる」ことを記録しつづけています。成熟した時代の、言葉にできない不安や閉塞感。一言では言い表せない、明解さに欠く写真表現は、この時代のひとつの特徴ともいえます。

空っぽな場所で、ポジティブに。

本展では、これといって個性のない、空っぽな場所が被写体として多く登場します。そのような「主題としては不確かな場所」で、作家は写真の可能性をポジティブに追い求めています。個人ではあらがえない課題の多い時代に、目の前の現実と向き合い続けること。写真家たちの作品からは、未来への視点を感じることができるでしょう。



佐内正史 (1968-)

〈生きている〉は 1997 年に同名の写真集として発表されたシリーズ。植物やアパートのドア、自動車など、日常に身近なものが丁寧に写しとられている。主に東京の杉並や江戸川の住宅街で撮影された。本シリーズは現在まで佐内と親交が続く、ミュージシャンの中村一義のデビュー作『犬と猫』(1997 年) のアートワークにも使われ、ジャンルを超えて鮮烈な印象を与えた。

〈生きている〉は「いま、ここにいる」ことを静かに肯定するような表現が特徴。

〈生きている〉より 1995 年 発色現像方式印画



ホンマタカシ (1962-)

〈東京郊外〉のシリーズでは、タイトルの通り、東京の郊外の風景やそこに暮らす人々が写されている。被写体と一定の距離を保ち、ときには演劇的に撮ることで、郊外の街の人工的な雰囲気が際立っている。

《少年 7 新浦安、千葉》〈東京郊外〉より 1998 年 発色現像方式印画



高橋恭司 (1960-)

シリーズ〈ザ・マッド・ブルーム・オブ・ライフ〉はアメリカを中心に世界の様々な場所で撮影された。スーパーマーケットの駐車場やアパートの裏の荒れた庭など、物寂しく、不穏な 9.11 以前の風景をとらえている。

《ロサンゼルス》〈ザ・マッド・ブルーム・オブ・ライフ〉より

1991-1993 年 発色現像方式印画



今井智己 (1974-)

タイトルに反し、夜の住宅街などで撮影された〈真昼〉では、わたしたちの日常に身近な建物や街路が不気味な存在感をたたえている。〈光と重力〉では、光と影が生み出す森の木々の一瞬の美しさをとらえた。〈Semicircle Law〉では、福島第一原子力発電所から 30km 圏内で原発の方向を撮影し、見るという行為そのものをテーマとした。

《無題》〈真昼〉より 2000 年 発色現像方式印画



松江泰治 (1963-)

作品タイトルで「JP」のあとに続くのは都道府県コードであり、空から撮影した土地を指し示す手がかりの一つとなっている。大地の隅々にまでピントが合い、地上の木々や建物が織りなす模様はときに抽象絵画のようであり、新しい視点を与えてくれる。

《JP-01 55》 2014 年 発色現像方式印画



安村崇 (1972-)

作家の実家で撮影されたシリーズ〈日常らしさ〉では、日用品などがまるで模型のような質感でとらえられている。極端に奥行きを欠き、すべてにおいて不自然さが際立つ。シリーズのタイトルはつまり、「日常らしさとは何か」という問いである。

《みかん》〈日常らしさ〉より 2002 年 発色現像方式印画



花代 (1970-)

花代の作品には、いつどこで撮影されたのかははっきりとしない、白昼夢のような世界が広がっている。ここがどこなのかどうでもいいのかもしれない。あざやかで儚げな色彩が、場所や時間を一つにつなぎあわせる。

《無題》 1987年 発色現像方式印画



野村佐紀子 (1967-)

超小型カメラで撮影された、ぼんやりと闇の中に広がる情景。ネオンサインや花火など様々な色をした光が、物悲しくも温かみのある、「いま」も「ここ」も曖昧な情景を作り出している。

〈夜間飛行〉より 2008年 発色現像方式印画



笹岡啓子(1978-)

〈Fishing〉で写されているのは海辺の光景。釣り糸を垂れる人の姿が写っている。草むらを掻き分け、岩場を乗り越えて、自分だけのポイントに向かう釣り人は、「いま、ここにいる」理由をよく知っている。

《Itoman, Okinawa》〈Fishing〉より 2011年

発色現像方式印画

東京都写真美術館コレクションについて

本展はすべて東京都写真美術館の収蔵作品から構成しています。「写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する」ことを収集の基本方針として、1989(平成元)年より写真の黎明期から現代までの質の高い写真と映像に関する作品を収集しています。

収蔵点数 計 34,008 点 (平成 29 年 3 月末時点)

内訳：国内写真作品 22,273 点、海外作品 5,634 点、映像作品 2,376 点、写真資料 3,725 点

関連事業

展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日16:00より、担当学芸員による展示解説を行います。
展覧会チケット（当日消印）をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

じっくり見たり、つくったりしよう！

出品作品に写っているものについて全員で対話をしながらじっくり鑑賞したあと、暗室での簡単な制作を行います。（作品解説ではありません）

日程：2017年6月25日(日)、7月2日(日)いずれも10:30-12:30

対象：小学生とその保護者(2人1組)

定員：各日10組(事前申込制)、参加費：800円(別途本展観覧料)

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。

日程：2017年5月28日(日)、6月4日(日)いずれも10:30-12:30

対象：どなたでもご参加いただけます。（事前申し込み制・抽選）

参加費：500円

事業はやむを得ない事情で変更することがございます。あらかじめご了承ください。

次回予告

総合開館 20 周年記念 TOP コレクション

「コミュニケーションと孤独—平成をスクロールする 夏期」(仮称)

会期：2017 年 7 月 15 日(土)—9 月 18 日(月・祝)

メールやインターネットの普及、肖像権侵害や個人情報保護、ひきこもり、コミュニケーション障害など、平成の出来事は、他者とのコミュニケーションのはかり方、ものとの距離の取り方を変容させました。こうした変化は、作家と被写体との関係性にどのような影響を与えたでしょうか。本展では、人と人、人とものとのつながり方の変化をキーワードに収蔵作品を紹介します。

[出品予定作家] 菊地智子、北島敬三、郡山総一郎、ホンマタカシ、屋代敏博、やなぎみわ ほか



左：
菊地智子《鏡の前のグイメイ、重慶》
〈The Way We Are〉より
2011 年
インクジェット・プリント
右：
郡山総一郎〈Apartments in Tokyo〉より
2013-14 年
発色現像方式印画

総合開館 20 周年記念 TOP コレクション

「共時性 シンクロニシティ—平成をスクロールする 秋期」(仮称)

会期：2017 年 9 月 23 日(土・祝)—11 月 26 日(日)

世紀転換期において、モダニズムという「大きな物語」やマス・コミュニケーションの力が減退するにつれて、私たちが「現実」と呼んでいるこの世界の在りようをめぐりイメージは変容してきました。平成の時代の写真・映像作品は、「現実」のあいまいさや多義性を様々な視点から、小さな「現実」や小さな「物語」として描き出してきたと言えるでしょう。共時性（シンクロニシティ）とは、同時に起こるばらばらな物事が一致したり、共通したりする現象を言います。本展では平成の写真家たちが捉える個々のリアリティのつながりや響きあいを新たな視点から検証します。

[出品予定作家] 大森克己、川内倫子、北野謙、蜷川実花、野口里佳、原美樹子、浜田涼 ほか



左：
川内倫子〈うたたね〉より 2001 年
発色現像方式印画
右：
大森克己〈サルサ・ガムテープ〉より
1998 年 発色現像方式印画

開催概要

総合開館 20 周年記念 TOP コレクション「いま、ここにいる—平成をスクロールする 春期」
“In the Here and Now” (Part 1 of the TOP Collection Exhibition "Scrolling Through Heisei")

会 期 2017 年 5 月 13 日(土)—7 月 9 日(日)

主 催 東京都 東京都写真美術館

協 賛 凸版印刷株式会社

会 場 東京都写真美術館 3 階展示室

東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0099 URL www.topmuseum.jp

開館時間 10:00~18:00 (木・金は 20:00 まで) 入館は閉館 30 分前まで

休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は開館、翌平日が休館)

観覧料 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65 歳以上 250(200)円

※ () は 20 名以上の団体料金 ※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方と
その介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、下記広報担当までご連絡ください。

掲載点数が 1 点の場合は、展覧会メインイメージとして、本リリース表紙にあります、

佐内正史〈生きている〉より 1995 年 発色現像方式印画 のご掲載を薦めさせていただきます。

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

また、図版のトリミング、文字かぶせ等の加工はご遠慮ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

展覧会担当 伊藤貴弘 (春期) t.ito@topmuseum.jp

武内厚子 (夏期) a.takeuchi@topmuseum.jp

石田哲朗 (秋期) t.ishida@topmuseum.jp

広 報 担 当 久代明子 平澤綾乃 前原貴子 press-info@topmuseum.jp